

令和元年度広島県献血推進審議会議事録（概要）

- 1 日 時 令和2年3月16日（月） 午後13時30分から14時30分まで
- 2 場 所 広島市中区千田町二丁目5番5号
広島県赤十字血液センター2階研修室
- 3 出席委員 15名, ○会長
西本 博之 委員（広島県議会議員）
杉原 清香 委員（広島大学原爆放射線医科学研究所
附属被ばく資料調査解析部 助教）
○大谷 博正 委員（一般社団法人広島県医師会 常任理事）
土谷 晋一郎 委員（一般社団法人広島県病院協会 常任理事）
中村 充宏 委員（広島県公立高等学校長協会 副会長）
徳本 博志 委員（日本労働組合総連合会広島県連合会 副事務局長）
守田 丸平 委員（西日本旅客鉄道労働組合広島地方本部 執行委員長）
藪本 敬士 委員（JAM山陽広島県連絡会 会長）
山本 幸 委員（広島県地域女性団体連絡協議会 理事）
酒井 伸治 委員（公益財団法人広島県交通安全協会 専務理事）
杉田 裕 委員（ライオンズクラブ国際協会 336-C 地区
地区GST糖尿病・献血・献眼・献腎・環境保全・
保健福祉 委員長）
元木 禎宏 委員（広島市献血推進協議会 副会長）
城 健康 委員（呉市献血会 会長）
泉水 直 委員（日本赤十字社広島県支部 事務局長）
山本 昌弘 委員（広島県赤十字血液センター 所長）
- 4 議 題 ◎報告事項
・広島県の献血状況
・平成31年度広島県献血推進計画に対する実施状況
・赤血球及び血液製剤の在庫状況
・県内の献血の現状について
◎審議事項
・令和2年度広島県献血推進計画の策定について
- 5 担当部署 広島県健康福祉局薬務課製薬振興グループ
TEL（082）513-3223（ダイヤルイン）
- 6 会議の内容 ◎報告事項
・広島県の献血状況（県）
・平成31年度広島県献血推進計画に対する実施状況（県）
令和元年度広島県献血推進審議会資料により説明。
[質問・意見等]
（委員）
若年層の献血率が低く、年齢が高い層では献血率が高い。これは、社会奉仕、基本のものに対する取り組みの姿勢がこういうものに表れてい

ると思う。そういうところに根を下ろしていかないといけないと思う。子供に触る親に与えてそれが輪を広げていく、広がりをもっていくことが非常に大切な時期ではないかと思う。

小・中・高のPTAへの働きかけやテレビ等を利用したPRを含め、今から幅広い取り組みが必要ではないか。また、現実を考え献血者の立場になって献血者の声を聞き、反映したようなかたちのものが必要だと思う。

(事務局)

以前アンケート調査を実施した結果、献血をしなかった大きな理由で、針が刺さるのが怖い、痛そう、そして、なんとなく周りがしていないからという意見が多く、この2つに着目して県は別紙のような「18Gを乗り越えろ！」という針が細くなったということを高校生に広報すること、また、献血をしてくれた高校生の写真をフェイスブック等に掲載することで、同級生からの献血協力を促すような、まずは環境づくりを推進しているところである。

(委員)

若い人の献血者が減っているというのは、若い人の人口が減っている。

人口と献血者数の献血率の比率を見てみると決して減っている訳ではなくて、H28年度から全国の血液事業で、10代の献血者を増やそうという取り組みが始まり、10代が増えている。20代前半である20歳から24歳は大学生ですが、大学の移動献血の回数を増やして増えている。ただ、30代はなかなか増えないという現状。

人口減少というものが結構大きい理由だと思う。

- ・赤血球及び血液製剤の在庫状況（広島県赤十字血液センター）
 - ・県内の献血の現状について（広島県赤十字血液センター）
- 令和2年度広島県献血推進審議会資料により説明。
[質疑応答なし]

○審議事項

- ・令和2年度広島県献血推進計画の策定について
広島県献血推進審議会議案書及び令和元年度広島県献血推進審議会資料により説明。
[質問・意見等]

(委員)

目標献血者数の400mL献血で本通は増えているが、紙屋町では減っていることに関し何かやり方が違うのか。

もう一つは、計画に関し、複数回献血への呼びかけに協力をするから、継続的な献血への協力を呼びかけると積極的になっており非常に主体性があるがよい。

(事務局)

紙屋町と本通ですが、開所時間が朝型なのが紙屋町で朝9時から開所している。一方、本通は朝10時30分から20時まで職員が居り18時30分までの受付で夜型である。

いただく献血により実は優先順位があり、有効期限が最も短い血小板成分献血を第一優先にその日の確保量を朝一番から採っているということで、朝早くから開く紙屋町はどちらかというと成分献血の確保量が必然的に多くなる。本通については、その日に確保できなかった製剤について確保していくことにより、必然的に400mL献血が本通の役割にな

ってくる。

また、今回見比べいただきにくいのは福山が閉鎖してしまうため、H31年度3か所で集めていたものをR2年度では2か所で集めるというところから単純に比較しにくいところですが、必要な献血の優先順位、血小板成分献血4日間しかもたないのも、それをコンスタントに集めていくというところから役割の違いに応じた採血本数の振り分けというようになっている。

令和2年度広島県献血推進計画について審議し、原案どおり承認された。

○その他

(会長)

コロナウイルス感染症の拡大により、献血に関して適切に対応しているということですが、その件について説明していただきたい。

(事務局)

広島県の献血について、移動採血、固定施設に来ていただく採血と2つの方法で採血をしている。

移動採血について、コロナウイルスが流行りだした2月後半から、いつかは広島県でも感染者が出るのではないかというふりから、徐々に献血実施のキャンセルの連絡が入るようになった。最初は、2月27日実施分のキャンセルのスタートから、今現在4月15日の実施分までのキャンセルがトータルで27件の連絡が入っている。その都度、振替会場をお願いをしたり、報道でかなり献血者が少ないとあったことから、こんな時だからこそと企業様から声を掛けていただくなどして20件の振替をすることができている。

ただ、4月の後半に向けて、更なるキャンセルの連絡が入るという可能性があることから、まだまだ予断を許さない状況である。

一方、固定施設は、報道が3月5日に大きく全国報道された後、待機時間もありながら多くの献血者に御協力をいただいた。

ただ、医療機関という献血ルームの位置づけから換気ができないということで、多くの方に同じ空間に長時間いていただくことのリスクを考えたときに、それと、一度にたくさんの血液をいただいて有効期限が同じ時期にきてしまうリスクを考えた時にやはり分散して来ていただく等、日本赤十字社は献血を予約にて御協力いただくようお願いをしている。

献血の予約枠を設けている。ラブラット会員という複数回献血を登録していただく、もしくは、電話で予約をしていただくことで待機時間を短くする、また血液センターとしてはいただける血液がある程度目安がつくということもあり、今は予約献血をお願いしている。

血液センターの職員も、コロナウイルスの感染に対する取組は行っている。採血スタッフは、朝出勤時に熱を測ってくることで、出勤してから熱を測ることを行っている。献血会場では、各ブースの職員が献血者一人ずつに対応するその都度アルコール消毒を行っている。また、献血者に熱を測っていただき、37.5℃以上ある方の入場を御遠慮いただいている。

このような衛生環境を保ちつつ、尚且つコロナウイルス等に対応するためになるべく危険リスク、因子は排除していこうということから予約の献血をお願いしている。

また、献血をされた後に4週間以内にコロナウイルス感染の疑い、または感染ということの診断があった際には御連絡をいただくようお願いをしている。今現在そういった連絡はないが、そのような対応をしている。

献血者については、これまで通り海外から入国して4週間以内の方には、献血を延期していただくよう、またコロナウイルスの感染者と接触された方も同じように4週間の延期をお願いしている。

そのような状況ですが、今献血については回復傾向、一時の危機を脱したという状況ではある。ただ、これから先移動献血の中止があるかもしれない、更に感染が広がるかもしれないが、医療機関で輸血を待たれる患者さんが変わらず居られるので、ある程度の献血が必要であるということで皆様をお願いをさせていただいている。

(委員)

政府が非常事態宣言を発した場合どう変わるのか、関係ないのか。

市町で取り組みを事前に考えておく必要があるのではないか。

(事務局)

非常事態宣言を発した後の対応については、血液センターとしては県の薬務課と相談しながら進めていくことになると思うが、今現在、非常事態宣言が出た後の対応については血液センターでは予測はしていない。

(会長)

献血については、今、予約にて適切に対応しているということで、これからのことに関しては、それを想定していろいろ対策をお願いしたい。

審議会終了

7 会議の資料名一覧

- 令和元年度広島県献血推進審議会次第
- 令和元年度広島県献血推進審議会資料
- 広島県献血推進審議会議案書